

羅 針 盤			方 策		点検・評価	達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目	自己評価	外部アンケート等	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①進学重視型の単位制の学校として、習熟度別・少人数制の授業形態や、自らの考えを深めたり、周りと意見交換し合ったりする授業内容に満足している生徒が70%以上いる。	①生徒の実態に応じた教育課程の編成を行い、また、職員間の研修を活性化させ、幅広い学力を付けさせる授業の実践を行うとともに、55分授業を活かし、授業内での言語活動の充実を図る。	A	A	A	○授業内容に満足している生徒の割合が90%を超えた。「授業第一」の理念が職員・生徒に浸透し、研究授業や授業観察、新しい学びに係る研修等を通して、言語活動を中心として「思考・判断・表現」や「主体的に学びに向かう態度」を育成できる授業が構築できている。また、EAST Projectに対しても主体的に取り組みたと考える生徒が80%を超え、学校行事などの場面でも道程をしっかりと考えて取り組む姿が見られた。一方で、「みらい学」や学校行事の遂行にあたっては職員の負担も大きく、業務軽減にも取り組む必要があると考える。学校のことが好きだと考える生徒も80%を超えたが、好きではないと回答する生徒も年次を重ねるにつれて高くなっており、今後の課題であるとする。 ○引き続き、生徒の進路実態に合わせた教育課程の編成を行うとともに、生徒に充実感、達成感を与えられるような授業が構築できるよう、職員間の情報交換を活性化していく。EAST Projectについては、特定の教員の負担にならないよう、職員全体で取り組める体制づくりを進めていく。また、生徒が自分自身の生き方や在り方を考え、卒業後も社会の一員として主体的に活動していけるよう、授業や「みらい学」、学校行事等、教育活動全般について創意工夫をしながら取り組む。	○特に問題なく良好である。 ○みらい学や行事など特色ある教育活動で教員と生徒のアンケート結果に差が出たが、教員側の負担があるということなどは、生徒主体で進めるということも可能ならばよい。 ○授業内容に満足している生徒が多いことは素晴らしい。先生と生徒のコミュニケーションもよくとれている。 ○学校が好きだと考える生徒が80%を超えたということから、素晴らしい学びの場を提供していることがうかがえた。 ○授業形態や特色ある教育については、生徒と教職員の評価もよく一致して高い水準になっており素晴らしい。一方、学校が好きではない生徒が16%もいる理由を探って対応する必要がある。
		②「みらい学」を中心としたEAST Projectに主体的に取り組んでいる生徒が70%以上いる。	②「エナジード」等を活用した探究活動を、教科学習や学校行事へ活かし、進路意識向上への動機付けとなるよう、教科・分掌間の連携を図る。	A	A	A		
		③自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上いる。	③授業を充実させるとともに、特別活動や部活動などの活性化を図る。	A	A	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④生徒が授業中主体的に学習するよう授業改善し、「主体的に授業に取り組むことができた」と答える生徒が、70%以上いる。	④言語活動を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を行う。	A	A	A	○全職員が「授業第一」という言葉を合言葉に学習指導をしていることもあり、授業内での生徒の学習に対する取組は、概ね高評価であった。さらに良くなるように、小さな声にも耳を傾けながら、改善を図っていききたい。特に、次年度は今年度以上に、定期考査の質の向上について、全職員で取り組んでいきたい。授業内容と考査内容が、しっかりとリンクしているか、そして質・量ともに適切であったかを考査ごとに振り返り、学校全体の授業内容の向上につなげていきたい。 ○生徒の授業に対する姿勢や取組が良かった一方で、確かな学力が身についたと感じている生徒および教職員は、6割程度に留まっている。年を追って、少しずつ改善傾向にあるものの、まだ物足りないというのが本音である。さらなる授業改善が必要であるのは当然であるが、授業内容を定着させるには、やはりそれ相応の家庭学習が必要である。課題の質・量を再検討し、家庭学習がより効果的になるように改善をしていく必要があるだろう。特に生徒に与える課題が、生徒に身につけてもらいたい内容と一致しているか、そして、その課題をすることで、生徒が学力が身についたと感じることができるか、それらの点を意識して、課題選定をしていく力を教職員側が身につけていく必要がある。	
		⑤自分の学習目標を明確にして、学習に意欲的に取り組んでいる生徒が、70%以上いる。	⑤自分の能力ややりたいことを自覚させるために、探究活動や進路研究を積極的に活用して、生徒各々にとっての学習目標を明確にさせる。また、学習に対するPDCAサイクルを、生徒自身ができるような取組を行っていき、生徒の学習意欲を喚起する。	B	B	B		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥進路目標に応じた学力を身に付けたと自己評価している生徒が70%以上いる。 ⑦授業以外での学習時間が1時間30分以上の生徒が、70%以上いる。	⑥基礎基本の定着を図るとともに、質・量ともに適切な課題を配付し課外授業を実施する。また、定期考査の質について再確認し、生徒に身につけたい学力と授業内容に相違がないかを科目内で共有し、調整する。 ⑦進路講演会や三者面談等を行い、生徒に主体的に目標をもたせ学習への自覚を促す。また、外部との交流や校外での活動を促進し、生徒の学習意欲を喚起する。	C	C	C		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧登下校時、自転車事故に遇わないために交通ルールを遵守している。	⑧係職員と係生徒が中心となり、登下校時の交通指導や交通安全教室等を行うとともに、全職員が積極的に指導に関わる。	B	A	A	○特に問題なく良好である。 ○心に悩みをもったり、なかなか表に出せない生徒も多いと思うので、カウンセリング等で積極的な対応を継続してほしい。 ○自転車用ヘルメットの着用も大切だが、自転車での「ながらスマホ」や「歩きスマホ」についての危険性も周知してほしい。 ○不安や悩みのある生徒への対応はうまくいっているように感じる。 ○通学時から先生方が見守ることで、安心して登下校ができています。 ○交通ルールについては、100%に近い生徒が守れていると言っているのは指導の賜物だ。一方、学校の美化に對しての取組は、生徒の自己評価が教職員より少し低いことが気がかりである。何事も人任せにせず、自分から進んで取り組めるようになってもらいたい。	
		⑨校内美化・安全点検を、毎月実施している。	⑨その日の清掃で気持ちいい事を話題として次回の清掃に繋げ、自分たちで綺麗にした充実感や満足感を感じられるように支援する。	A	B	A		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っていますか。	⑩良好な人間関係づくりを実行できている生徒が70%以上いる。	⑩いじめ早期発見に向け、生徒観察、校内巡視及び定期生活アンケート等を行う。また、生徒が悩み等を相談しやすい環境作りに努める。	A	A	A		
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪1日の平均遅刻者が全生徒の2%以下である。	⑪遅刻者記入カードを活用し、遅刻常習者には保護者と連携して、個別の指導・支援を行う。	A	A	A			
	⑫自身の健康管理に関心を持って生活する生徒が60%以上いる。	⑫「保健だより」や、教育相談等で生徒の身体面・精神面を支援する。受診率の向上に努める。	A	A	A			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑬担任と生徒の二者面談を年2回以上、保護者を加えた三者面談を年2回（1・2年次は1回）効果的に実施する。	⑬進路希望調査や模試結果などの事後指導を通して、現状を生徒に正しく認識させ、主体的な進路選択に必要な材料を蓄積させる。	A	A	A	○特に問題なく良好である。 ○全職員の生徒への細やかな声掛けや指導が実を結んだとあるが、今の時代は生徒へきめ細かく丁寧な話をすることがとても重要だと感じる。 ○先生方の努力が感じられる。 ○生徒が校外にいるいろいろな方との交流を持つことは、視野を広げるとい意味でも有意義である。 ○二者(三者)面談をすることで進路を明確にしていけることができています。 ○進路指導については、生徒は93.7%が適切だと言っており素晴らしい。各自が自分の得たい未来をもっとクリアに描けるようになれば学習にも反映されると期待される。	
		⑭進路に関わる情報提供が役に立っていると考える生徒が70%以上いる。	⑭生徒の希望進路に応じて、個別に進路情報を提供することに加えて、年次ごとの進路講演会や集会での連絡を効果的に実施する。	A	A	A		
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるように努力をしている生徒が、70%以上いる。	⑮キャリア教育に関する行事の際に、事前事後の指導を徹底するとともにキャリアパスポートを活用して、自己の活動について振り返らせ、改善に役立てられるようにする。また、大学見学や大学出前授業など外部との交流や校外での活動を促進し、生徒が自らの進路について真剣に考える機会を多く提供する。	B	A	B		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑯本校の教育活動や取組を保護者や地域の人々に理解してもらうために、学校のホームページを適時更新し、更新率が70%以上である。	⑯各種行事等が終了する毎に、各分掌、各年次に協力を依頼し、最新の情報を提供するよう心がける。	C	B	B	○今は就職する時の入社式などにも保護者が関わろうとする時代であるので、可能な範囲で保護者が来校できるようにすることが大切だと思う。 ○高校生になると家で学校生活のことは話さなくなるので、ホームページの充実も保護者にとって良い。ホームページから様々な学校行事が行われていることがわかる。 ○保護者の中に情報を受け取れていない方が多いようなので、双方向のコミュニケーションが必要かもしれない。	
		⑰各年次保護者会や保護者向け講演会等に参加したことがある保護者が70%以上いる。	⑰他の分掌や年次と協力し保護者にとって魅力ある内容になるように検討するとともに、開催内容等の周知を徹底する。	B	D	C		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑱ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	⑱ICTを授業で活用するための環境を整え、技術面や活用方法の支援が必要な時期に適切に行う。	B	A	B	○1人1台端末活用は、生徒のほうで活用力があって教員としては難しさがあるが、活用しない活動も意義や効果があるので、上手に使い分けるとよい。 ○情報漏洩やセキュリティについては、家庭では教員が難しいので、学校で情報提供をお願いしたい。 ○ICTは生徒の興味を引き、勉強だけでなく多方面の情報収集に役立っていると感じる。 ○生徒も保護者もICTの活用に対する満足度が90%以上になると良い。	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑲ICTを活用した通知に、生徒の70%以上が満足している。	⑲職員がICTを活用しやすいように環境整備に努め、利用にあたっての技術情報などを伝達する。	A	A		A